

HOAP



DX化支援 社内認定シリーズ ChatGPT業務活用コース

生成AIの進化と助成金制度を追い風に、今は企業がAI人材を育成する絶好の機会です。



会社概要

会社名	株式会社HOAP
所在地	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町20-1 渋谷インフォスター5F
設立	2018年10月1日
資本金	1,000万円
T E L	03-6821-6151
H P	https://hoap.tokyo/

サービス概要(シリーズコンセプト)

DX化支援社内認定 シリーズ

ChatGPT業務活用コース

Google系AI業務活用コース

DX化支援認定シリーズは、企業のDX推進に必要な基礎知識とAIリテラシーを、eラーニングで効率的に習得し、テストで理解度を可視化できる法人向け学習シリーズです。場所を選ばず学べる手軽さと、体系的に学べる実用性を両立し、受講後はリテラシーチェックテストによって、受講者ごとの理解度確認や社内の学習定着状況の把握がしやすい設計となっています。「学ぶだけで終わらない」ことを重視し、DX・AI活用の土台づくりと、組織全体の基礎レベルの標準化を支援します。

このシリーズで実現できること

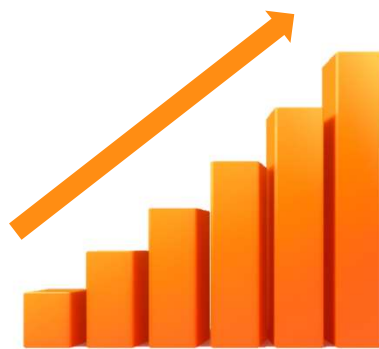
DX・AIの基礎を学び、理解度まで確認できる法人向け教育シリーズ。
90日間のEラーニングとリテラシーチェックテストで、社内のDX推進に必要な共通基盤づくりを支援します。
「学んだつもり」を防ぎ、社内のDX推進に必要な基礎づくりを支援します。



体系的に学べる

受講者がDX推進やAI活用に必要な基礎知識をeラーニングで無理なく学習できます。

断片的な理解ではなく、実務につながる土台を整理して身につけられるのが特長です。



理解度を可視化できる

リテラシーチェックテストにより、学習内容の定着度を確認できます。

「見たかどうか」だけでなく、「どこまで理解できているか」を把握しやすくなります。



組織の基礎レベルを標準化できる

学習内容とテストを通じて、社員ごとの知識のばらつきを減らし、組織としての基礎レベルを揃えやすくなります。DX推進を全社で進めるための共通基盤づくりに役立ちます。

ご利用企業

製造・小売・サービス・医療/介護など、幅広い業種の企業・団体にご導入いただいています。



DX・AI教育を全社的に進めたい企業

一部部署だけでなく、全社員に向けてDXやAIの基礎教育を広げたい企業に適しています。

受講後の理解度まで確認したい企業

学習機会の提供だけでなく、テストによって理解度や定着度まで把握したい企業に最適です。

まずは導入しやすい形で始めたい企業

集合研修よりも負担を抑えつつ、eラーニングで効率よく教育を進めたい企業に向いています。



当社が選ばれる理由

- 01 ストーリー形式でわかりやすい**

登場人物や現場の流れに沿って学べるため、知識を「自分ごと」として捉えやすく、内容が自然に頭に入ります。
- 02 学習と確認をワンセットで提供**

eラーニングで学ぶだけでなく、リテラシーチェックテストによって理解度まで確認できます。「学んだつもり」を防ぎ、学習成果を見える化できます。
- 03 全社展開しやすい内容設計**

専門知識がない方でも理解しやすい構成のため、部門や職種を問わず導入しやすいのが特長です。全社的なDX・AI教育の基盤づくりに適しています。
- 04 現場活用をイメージしやすい**

実際の業務に近い場面設定で学べるため、知識の習得にとどまらず、「どう活かすか」まで具体的に考えやすくなります。
- 05 導入しやすいeラーニング形式**

集合研修に比べて導入しやすく、受講者が自分のペースで学習できるため、無理なく教育を進められます。

構成の特長

従来の研修課題

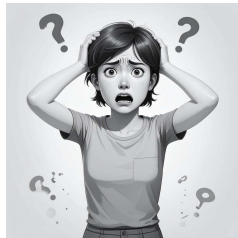
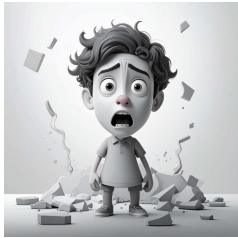
内容が硬すぎる



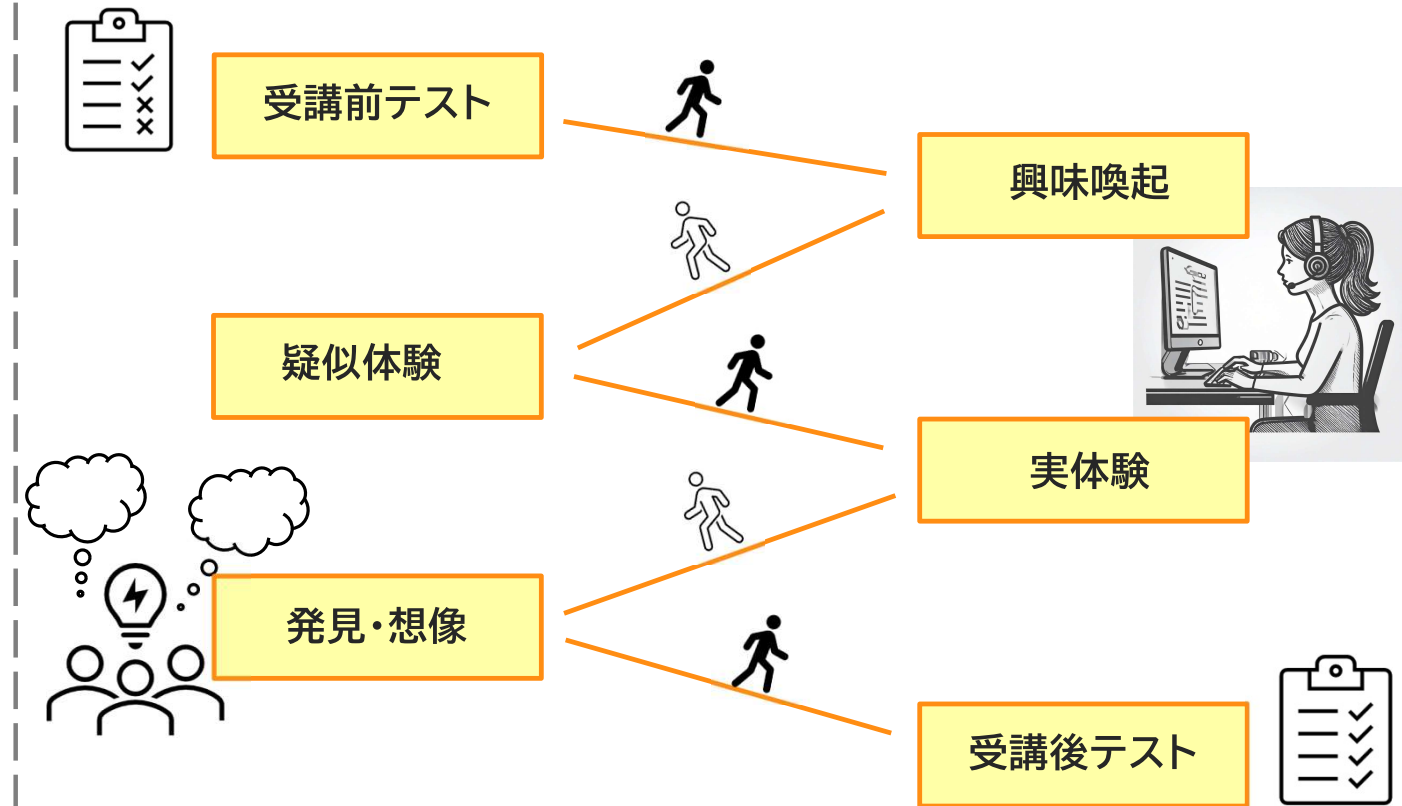
頭に入っていない



活用シーンを想像できない



DX化支援社内認定シリーズ



学ぶだけで終わらせない。eラーニングとリテラシーチェックテストで、理解度の確認と学習内容の定着を支援する構成です。

AIリテラシーチェックテスト



学習成果を見える化する、AIリテラシーチェックテスト付き。
AIの基本理解から活用時の注意点まで、受講者の理解度を確認できるテストです。

「学んだつもり」を防ぎ、社内に必要なAIリテラシーの定着を支援します。

研修で学んだAIの理解度を見える化し、教育効果をしっかり確認

Q1 未解答
マークダウンとは主にどのような目的で使われる記法ですか。

A. コンピュータの処理速度を上げる
 B. 文章の構造を分かりやすく表現する
 C. AIの学習データを増やす
 D. ネットワーク通信を高速化する

Q2 未解答
次のうち、マークダウンの見出しを書く正しい方法はどれですか。

A. # 見出し
 B. @ 見出し
 C. \$ 見出し
 D. & 見出し

Q3 未解答
マークダウンで箇条書きを作るときによく使われる記号はどれですか。

A. -
 B. #
 C. %
 D. &

Q4 未解答
マークダウンの引用を表す記号はどれですか。



カテゴリ	ランク	点数
仕事に対する基本姿勢	😊 C	17/30
AIの基礎理解	😞 D	22/50
倫理・法規・セキュリティ意識	😊 C	36/70
生成AIの活用	😊 C	25/40
AIの適切な活用判断	😞 D	26/60

学習管理システム(LMS)

直感的に操作できるプラットフォーム設計により、スムーズに学習を進められ、受講完了後には修了証明書を発行



修了証明書



プラットフォーム

01 直観的に分かりやすいデザイン

ユーザー視点を徹底し、誰にとっても理解しやすいシンプルかつ直観的なデザインを設計している

02 結果の管理

各受講者の学習進捗および視聴履歴を記録しCSV形式でのデータ出力に対応している

03 飛ばし見防止機能付き

学習効果を高めるための飛ばし見防止機能を搭載している

ChatGPT業務活用コース

ChatGPT

業務活用コース



メモリ機能（長期的・自動的な記憶）

メモリバンク（記憶データベース）

ユーザーは犬が好き
犬やコーギーについて興味あり
さしく、親しみやすく

「犬はこの切り口が合いそう」という調整

AIの回答（例）

犬について詳しいんですね！
柴犬やコーギーについて
もっと教えてくださいませんか？

チャットを続けていくうちに
保存されるもの

- ✓ ユーザーの好み
- ✓ 特定の呼び方
- ✓ プロジェクトの前提条件

適用範囲

現在のチャットだけでなく、新しい
チャットにも引き継がれる

「メモリ」として残ることがあり、少しずつメモリが増えてい
っている。ちょっと見てみようか。

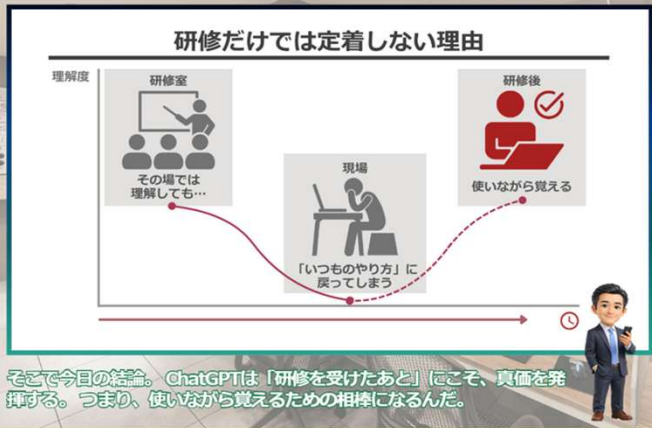
1章

生成AIは、いろいろな種類や機能を知ることも大切ですが、一つの
ツールを深く使い込む中で、これまで見えにくかった価値に気づく
場面も増えていきます。

この教材では、数ある生成AIの中からChatGPTを入口として、
仕事の中でどのように使えば効果が出るのかを、具体的な場面を想定
しながら順を追って説明していきます。

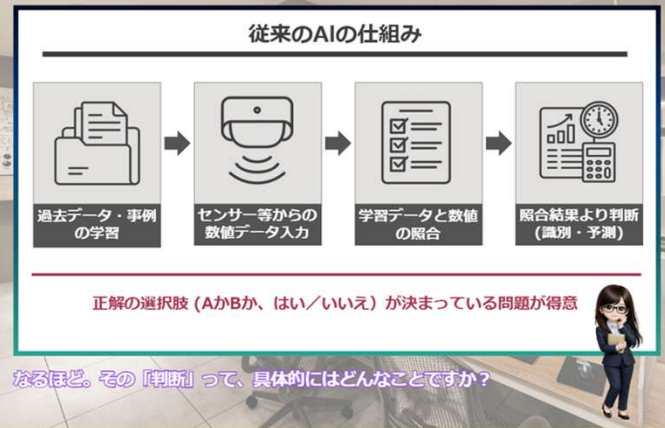
実はね、前職では、工場で生産管理の仕事を
していたんだ。

AIの力で課題を解決するストーリー



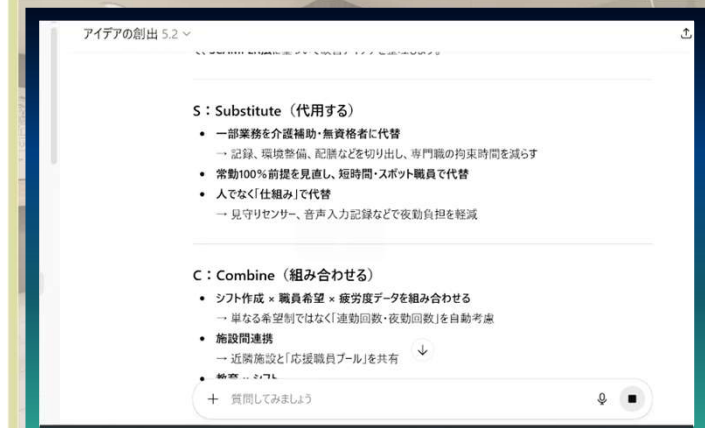
定着・習慣化まで見据えた研修設計

学んで終わりではなく、継続的に業務で活かせる使い方まで身につけられます。



安全に活用するための基礎力を習得

生成AIの注意点に加え、セキュリティや著作権など業務利用に必要な基礎も習得できます。



現場ですぐに使える実践型学習

情報整理、資料作成、PDF活用など、実際の業務に沿って学べる構成です。

各章で学べるAI

■ 全9章構成

■ 標準学習時間:約12時間

■ 全動画 90日間見放題

1章

【内容】
生成AIの活用が広がる背景や、業務で成果が出る使い方を学びます。あわせて、LLMの基本的な仕組みや検索との違い、生成AIの特性を理解します。

【身につくこと】
生成AIの得意・不得意を理解し、前提を踏まえて適切に活用する基本的な判断力が身につきます。

2章

【内容】
期待する回答を引き出すための指示の出し方や、業務に合わせたGPTsの活用方法、安全に使うための注意点を学びます。

【身につくこと】
回答の質を高めるプロンプト設計力と、リスクを踏まえて安全に活用する実践力が身につきます。

3章

【内容】
資料作成や情報整理、アイデア検討など、実際の業務を想定したケースを通じて、ChatGPTの活用方法を実践的に学びます。

【身につくこと】
業務に応じた活用方法を判断し、試行錯誤しながら活用精度を高める力が身につきます。

4章

【内容】
ロールプレイ演習を通じて実践的な対応力を養い、さらにクイズやCanvas、プロジェクト機能を使った継続学習の進め方を学びます。

【身につくこと】
実践的な対話練習の進め方と、生成AIを継続的に活用しながら学び方を深める力が身につきます。

5章

【内容】
画像や音声を活用して、状況把握、情報整理、報告作成などにつなげる方法を学びます。

【身につくこと】
画像や音声を使って情報を整理し、業務の判断や記録、共有に活かす力が身につきます。

6章

【内容】
見出しや箇条書き、表などを使って指示文を整理し、AIに意図をわかりやすく伝える方法を学びます。

【身につくこと】
AIが理解しやすい形で指示を書き、回答のばらつきを抑える力が身につきます。

7章

【内容】
生成AIを安心して業務活用するために、情報入力時の注意点や著作権に関する基本的な考え方を学びます。

【身につくこと】
入力してよい情報・避けるべき情報を判断し、安全に活用するための基準が身につきます。

8章

【内容】
学んだ内容を一時的な活用で終わらせず、日常業務の中に無理なく取り入れ、継続して活用する方法を学びます。

【身につくこと】
ChatGPTを日々の業務に定着させ、継続的に活用するための習慣と進め方が身につきます。

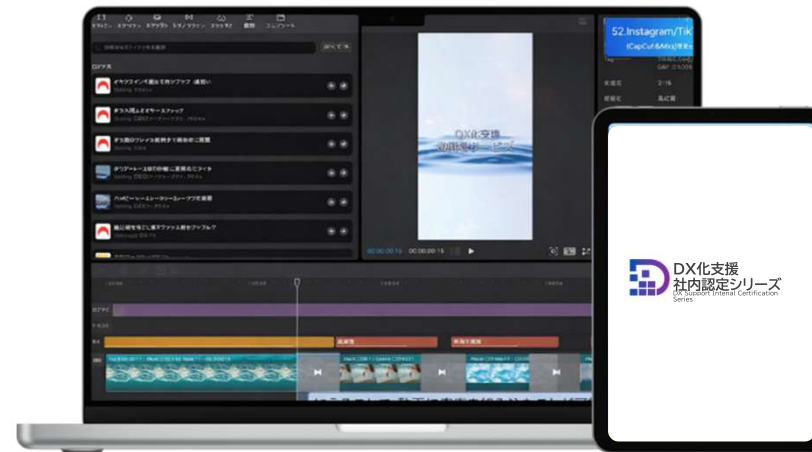
9章

【内容】
ChatGPTを答えを出す道具としてだけでなく、思考整理や判断を支える相手として活用する考え方を学びます。

【身につくこと】
AIに任せる部分と自分で判断する部分を整理し、対話を通じて思考を深める力が身につきます。

サービス料金

DX化支援社内認定シリーズ ChatGPT業務活用コース:サービス料金(受講料金)



1人:182,000円(税別)

- ▶ AIの利活用に特化した研修を体系的にパッケージ化。
LMS機能(学習管理システム)を備えたeラーニング動画形式
- ▶ 動画視聴後は日常業務へAIを取り入れた実践が容易となり、
業務効率化を強力にバックアップ

助成金入金までの流れ

約10日

約45日

約3日

約45日

約10日

約2-6ヶ月

01

02

03

04

05

06

07

ご契約

計画申請

申請許可

研修開始

研修完了

助成金申請

助成金入金

助成率・助成額について

厚生労働省の人材開発支援助成金一事業展開等リスクリング支援コースの申請が可能
(DX化支援社内認定シリーズをご受講の場合)

182,000円 / 人

研修費用を最大150,000円削減
(中小企業の場合)

32,000円 / 人

※ 大企業は10万円削減となります。

※ 助成率 中小企業最大75%、大企業最大60%

A man in a dark blue suit and teal tie is sitting at a desk, typing on a laptop. A white robot with black joints is standing next to him, pointing at the laptop screen with its right hand. The background is a blurred office setting.

Thank You

生成AIの進化により、ビジネスの前提は大きく変化しています。

今や、AIを活用できるかどうかが生産性と競争力を左右します。

助成金を活用し、負担を抑えながらAI人材育成を進める絶好のタイミングです。